

2 略年表

年	月	できごと
建久元(1190)	—	源頼朝、上洛 鴨志田十郎、馬場次郎、寺尾太郎、寺尾三郎太郎などが 随行したことが『吾妻鏡』に記されている(平安時代末期)
承久3(1221)	—	承久の乱 戦傷死者のなかに潮田四郎太郎、潮田六郎、寺尾又太 郎、寺尾左衛門尉などの名前が『吾妻鏡』に記されている
元弘3(1333)	—	新田義貞率兵・鶴見合戦おこる
建武元(1334)	—	『松蔭寺古図』作成(室町時代)
永享8頃(1436)	—	諏訪氏が寺尾城を築城 以後、初代諏訪右馬助から5代目馬之丞に渡って諏訪氏 が城主を受け継ぐ。
天正3(1575)	—	寺尾城主 諏訪氏滅亡
慶長5(1600)	10	関ヶ原の戦い
6(1601)	—	五街道を整備 鶴見橋(現・鶴見川橋)架設
16(1611)	—	二ヶ領用水完成
嘉永6(1853)	6	ペリー来航
安政6(1859)	6	横浜開港(6月2日開港記念日)
文久2(1862)	8	生麦事件おこる
明治5(1872)	9	12日新橋～横浜間鉄道開通、13日鶴見駅開業
22(1889)	4	市制施行(人口11万6193人) 市制施行に併せて、鶴見地域に旭村、生見尾村 (後の鶴見町)、町田村(後の潮田町)誕生
31(1898)	5	京浜急行電鉄の前身「大師電気鉄道」設立
44(1911)	11	曹洞宗大本山總持寺 鶴見に移転
大正2(1913)	2	浅野総一郎、鶴見埋立組合を組織し、鶴見海岸 495ha(150万坪)の埋立に着手
3(1914)	5	平岡廣高、児童遊園地「花月園」を開園
12(1923)	9	関東大震災発生
14(1925)	4	鶴見町(旧生見尾村)と潮田町(旧町田村)が合併 鶴見町となる
15(1926)	3	鶴見線の前身「鶴見臨港鉄道」開通
11	—	第一京浜国道全通
昭和2(1927)	4	鶴見町、旭村(現在の鶴見区全域と神奈川区・港 北区の一部)が横浜市に合併
10	—	鶴見区誕生 人口6万2446人 (鶴見・神奈川・中・保土ヶ谷・磯子の5区で区制施行)
3(1928)	6	市電子安線生麦～金港橋間開通
18(1943)	7	私鉄鶴見臨港鉄道を国が買収し、国鉄鶴見線開業
21(1946)	11	児童遊園地「花月園」閉園
25(1950)	5	花月園競輪場開場
29(1954)	8	三ツ池公園開園
31(1956)	6	横浜市、政令指定都市に指定
33(1958)	3	第二京浜国道全通
9	—	台風22号で鶴見川氾濫 家屋水没648世帯、 床上浸水14000戸
38(1963)	11	国鉄鶴見事故161人死亡
41(1966)	8	市電生麦線廃止
42(1967)	5	鶴見川、1級河川に指定
44(1969)	5	「鶴見会館」開館
50(1975)	4	獅子ヶ谷市民の森開園
52(1977)	10	区制50周年 人口23万7678人 (『鶴見区史』編纂・出版)
55(1980)	1	鶴見図書館開館
12	—	末吉地区センター開館(鶴見区第1号)
60(1985)	10	鶴見公会堂開館
61(1986)	3	鶴見駅西口市街地改造事業完了 (本市施行の初の再開発事業)
62(1987)	10	区制60周年 人口24万3751人 (『鶴見の歴史と人々の暮らし』編纂・出版)
63(1988)	1	鶴見区新総合庁舎完成 鶴見区マスコット「ワックン」制定 「横溝屋敷」市指定文化財第1号に指定
平成元(1989)	9	ベイブリッジ・スカイウォーク完成
平成2(1990)	6	上寺尾小学校コミュニティハウス(鶴見区第1号) 開所
7	—	大黒ふ頭埋立完成

年	月	できごと
平成3年(1991)	2	鶴見区のシンボルマーク制定
11	—	区民の花(サルビア)決定
6(1994)	5	鶴見駅西口行政サービスコーナー設置 潮田交流プラザ(国際学生会館・地区センター・ 地域ケアプラザ(鶴見区第1号)・ふれあいショップ ポート)開館
12	—	高速湾岸線(鶴見つばさ橋)開通
7(1995)	4	環境事業局鶴見工場本格稼働
8(1996)	7	大黒海づり公園開園 高齢者保養研修施設「ふれーゆ」オープン
9(1997)	5	入江川せせらぎ緑道開通
10	—	区制70周年 人口25万883人 (『鶴見懐かしの写真集』を編纂・出版)
10(1998)	10	区の木(サルスベリ)決定 中途障害者地域活動センター「ふれんどーる鶴見」 開所
11(1999)	7	馬場花木園開園
10	—	福祉保健活動拠点開設
12(2000)	4	理化学研究所「横浜研究所」発足
5	—	特別養護老人ホーム「新鶴見ホーム」開所
11	—	障害者地域活動ホーム「幹」開所
12	—	「馬場赤門公園」開園
13(2001)	3	「産学共同研究センター」開設
4	—	「市立大学大学院(連携大学院)」開校
14(2002)	1	福祉保健センター開設
15(2003)	4	横浜新技術創造館「リーディングベンチャープラ ザ」開館
16(2004)	4	国道357号線開通
18(2006)	1	「ゆうづる」(鶴見市場地域ケアプラザ・鶴見市場 コミュニティハウス)開所
19(2007)	3	東部地域中核病院「済生会横浜市東部病院」開院
5	—	鶴見中央地域ケアプラザ開所
10	—	区制施行80周年 人口26万7447人 (『つるみみやげ』制定)
21(2009)	4	横浜サイエンスフロンティア高校開校
22(2010)	3	花月園競輪場閉園
11	—	「鶴見会館」閉館
12	—	鶴見中央コミュニティハウス開館 鶴見国際交流ラウンジ開館
23(2011)	3	区民文化センターサルビアホール開館 鶴見駅東口地区第一種市街地再開発事業完了
24(2012)	1	生麦地域ケアプラザ開所
11	—	鶴見駅 駅ビル「シャル鶴見」開業
25(2013)	4	鶴見駅西口第二自転車駐輪場オープン(1,000台を収容)
27(2015)	2	馬場地域ケアプラザ開所
8	—	二ツ池公園一部公開
11	—	鶴見駅東口駅前広場整備完了

COLUMN 江戸時代の鶴見

江戸時代、鶴見の東海道筋は、街道の生麦村、鶴見村、市場村などに人が集まり、神奈川宿と川崎宿の間で「間の宿」として、にぎわいをみせていました。鶴見区域の大部分は幕府の直轄領(天領)で、代官が治めており、旗本領としては、獅子ヶ谷・駒岡・潮田(一時期)などがありました。

また、江戸時代の生麦は「御菜ハケ浦」の一つとして栄え、新鮮な魚介類を江戸城に献上していました。御菜ハケ浦とは、江戸城の御菜御肴を定期的に献上するほか、各種の船役を勤める見返りとして、現在の東京湾の漁猟に特権を認められていた専業漁業村落のことです。生麦以外には、芝金杉、本芝、品川獵師町、大井御林町、羽田(いずれも現東京都)、神奈川獵師町、新宿(いずれも現神奈川区)の7浦が指定されていました。